

第三回館山市議会议定例会會議錄（第四号）



一、昭和五十四年九月十一日（火曜日）午後一時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十九名

一番 神田 守隆	二番 石井 謀
三番 綱島 憲治	四番 横溝 功
五番 福原 勤	六番 鈴木 活龍
七番 古賀 礼四郎	八番 石井 昌治
九番 松下 正己	一〇番 穴戸 寿夫
一番 林 豊	一二番 栗原 一雄
一三番 近藤 好雄	一四番 渡辺 昭夫
一五番 伊藤 幸太郎	一六番 押元 稔
一七番 黒川 平治	一八番 流山 源次郎
二〇番 石井 武敏	二一番 吉田 勇治郎
二二番 藤田 益治	二三番 菊井 敏博
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二七番 石井 正
二八番 安沢 徳順	二九番 安西 益男
三〇番 山口 康	

一、欠席議員 一名

一九番 石井 輝久

一、出席説明員

第一号から農業委員会会長を除く

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第四号）

昭和五十四年九月十一日午後一時開議

議案第三十九号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第一

議案第四十五号

昭和五十四年度館山市一般会計補正予算（第一号）

議案第四十一号

館山市福祉作業所の設置及び管理に関する条例の制定について

日程第二

議案第四十二号

館山市国民健康保険財政調整基金の設置、管理及び処分に関する条例の制定について

議案第四十六号

昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

議案第四十三号

土地改良事業の施行について

日程第三

議案第四十四号

館山市中里地区土地改良事業分担金徴収条例の制定について

議案第四十七号

昭和五十四年度館山市国民宿舎特別会計補正予算（第一号）

議案第四十八号

昭和五十四年度館山市水道事業特別会計補正予算（第一号）

日程第四

請願第三号

請願書

日程第五

議案第二十一号

明正選挙推進に関する決議について

日程第六

議案第四十九号

館山市教育委員会委員の任命について

日程第七

議案第五十号

館山市名誉市民の称号を贈ることに

ついで

## 開 議 午後一時二十七分開議

。議長（石井 正君） 本日の出席議員数二十八名、これより第三回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

## 議 案 の 配 付

。議長（石井 正君） 議案を配付いたします。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

## 議 案 の 上 程

。議長（石井 正君） 議案第三十九号及び議案第四十五号の各議案を一括して議題といたします。

## 総務委員会委員長報告

。議長（石井 正君） ただいま議題となりました各議案は、去る九月六日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よつて、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長松下正己君御登壇願います。

（総務委員会委員長松下正己君登壇）

。総務委員会委員長（松下正己君） 去る九月六日開会の本会議に

おきまして本総務委員会に付託されました一般議案一件、補正予算一件について、翌九月七日総務委員会を招集し、全員出席のもとに各議案の内容審査を行いました。その経過並びに結果についてを御報告申し上げます。

まず初めに、議案の慎重なる審査結果について。議案第三十九号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、並びに議案第四十五号昭和五十四年度館山市一般会計補正予算（第一号）についてそれぞれ全員原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第四十五号につきましては、歳出総務費中二十一節災害復旧資金貸付金四百万の減額補正について、四十号議案撤回に伴う予算措置をどのように考えておられるか市長に説明を求めましたところ、本件については訂正して提出すべきが本来であります。なるべく近い将来に予算を補正して市民の要望にこたえていきたい旨の答弁がありましたので、早い機会に行政の責任において予算の補正措置を講じるよう強く要望いたしました。

次に、衛生費中二十八節繰出金国民健康保険特別会計繰出金二千万が計上されておりますが、画期的な措置と歓迎したいが、今後このような形の繰り出しを行っていくものか、また基金の取りくずしはどのような場合に考えていくのかと尋ねましたところ、市長より、年々保険税も増大しており、国保財政は不確定要素があつて運営上困難な場合もあるので、調整基金として積み立てたが、今後も国保財政の動きを見ながら検討してできるだけ積み立ても増したいと考えており、取りくずしについては財政の窮迫

状態に応じ対処したいとの答弁がありました。

次に、清掃費中十三節委託料環境影響調査委託料が計上されているが、ごみ処理場の移転についての話し合い、用地確保の見通しについて尋ねましたところ

衛生センターということで一カ所にまとめる考えで進めてきたが、併設が不可能となりましたのでごみ処理場の用地選定作業を進めているが、正木地区との覚書もあり、昨年約束時期まで移転はできない申し入れをし、最大の努力をするということで現在に至っており、幾つかにしばつた候補地について検討は進めている。また調査にあたってはその地域に話をしてあるとの説明がありました。

そこで、調査の方向をさらに説明を求めましたところ、

大気、水質、悪臭、震動等一応基準として指導されているが、その他地域地域によつて必要と思われるものを盛り込む指導も受けているので、交通事情等も考慮していきたいと説明がありました。また、早い機会に候補地を決め、十分なる地域住民との話し合いの中で対処していくよう要望いたしました。

また、現在のごみ処理場に優秀な機械をとり入れてはどうかと聞きだしましたところ、

用地が狭く、また市の長期的な土地利用ということもあり、この際他に土地を求めて造園計画を含めたイメージ的にもすつきりしたものをつくりあげていきたいと説明がなされました。

次に、農林水産費中畜産復合地域環境対策事業補助金についてその内容は説明資料にあるが、その場所についてどこかを尋ねましたところ、

現在は計画の段階であるが、堆肥舎九棟については神戸一、豊房一、北条二、館野一、九重二、那古二。ビニールハウスは九重地区、尿ストッカーは那古地区、乾燥施設については九重地区を予定しているが、事業主体である館山市農業畜産振興組合と協議して決めるようにしてあるとの説明がありました。

また、十三節委託料竹原地先農免道路調査委託料が計上されておるが、どのようなところが許可されるのか、その利点、将来性について質問をいたしましたところ、

農免道路については事業費二千万以上、受益対象五十ヘクタール以上、車道幅員四メートル以上の幹線道路と結ぶ道路として認められるものについて、事業費六分の五の補助が得られ、利用度は三芳受益面積八十二ヘクタール、館山百二十ヘクタール、受益戸数として三芳七十二、館山九十六であり、農作物の運搬等に利用されるとの説明がありました。

次に、商工費中中小企業融資補てん金六万円の内容について説明を求めましたところ、

当初予算で十万、補正六万、計十六万、現在一件を対象として十五万九千円のものが発生しており、それに充用するものである旨の説明がありました。

そこで、この制度の意義存続について説明を求めましたところ、五十三年度三十件の利用があり、すべて信用保証協会の保証がついており、銀行から融資が受けやすく今後続けていくとの答弁がなされました。

次に、土木費中住宅建設資金利子補給金三十万の内容について説明を求めたところ、

持ち家住宅の普及のため、県では住宅建設資金の利子補給に関する交付要綱が決められている。対象となる融資限度額は一般住宅二百五十万、大型住宅三百万であり、一般住宅分約十件から十二件を予定し算出してあります。なお不足の場合はすぐ補正するとの説明がなされました。

次に、教育費中十五節工事請負費の中で第三中学校運動場整備工事請負費が計上されているが、運動場敷地内に計画中のコミュニティセンター建設について説明を求めたところ、

館敷地は約一万坪あり、そのうち千坪に公民館を中心としたコミュニティセンターを建てる計画を進めていたが、今後学校の運動場はますます広くあることが望まれる時代の中で、敷地内につくらないでほしいという市民の要望もあり、またセンターには相当の駐車場も必要であり、この件については検討中であるとの答弁がされたが、この問題についてよく検討し、中学生の運動しやすい環境づくりに努力するよう要望いたしました。

以上、本委員会に付託されました議案二件について、総務委員会における審査の概要を御報告申し上げ、満場の御賛同をたまわりますようお願いいたします。総務委員会委員長報告といたします。

。議長（石井 正君） 以上で、委員長の報告を終わります。ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で、質疑を終結いたします。

討

論

。議長（石井 正君） これより討論に入ります。

通告がありますので順次発言を許します。

一番神田守隆君。

（一番議員神田守隆君登壇）

。一番（神田守隆君） 四十五号議案館山市一般会計補正予算につきまして反対の討論をいたします。

三億三千五百万円というような補正の予算であるわけですが、重要な問題点があるというふうに考えます。

それは第一に、議長交際費の三十万の増額あるいは市長交際費百万の増額の問題であります。当局の説明では、今年は市制四十周年事業のあること、あるいは三中建設等大きな事業の実施ということで、あるいはさらにごみ処理場の建設というような大きな事業を控えておると、こういうような説明を増額の理由としてあげたわけですが、このことについては質疑の中でも補正を組まなければならぬ理由ということではならないということで指摘したとおりであります。

市長が招待して議員を宴会によんだりするのも交際費から支出されているものであり、さらにその支出について項目別に支出パーセントが具体的には示されるのみで、それ以上はかんべん願いたいというような答弁であるわけですから、この問題については認めるわけにはいかないというふうに考えるわけです。

交際費をめぐるこの問題は、三十万、百万という金額の問題ももちろんさることながら、市民の税金であり、大きな仕事があるから当然必要だというよりな、言わば必要経費というよりな発想の仕方ではなく、市民の税金に対する市当局の政治姿勢を示すも

のということでの問題について受けとめて考えるわけでありま  
す。したがって、こういうような増額の説明には認めるわけには  
いかなないということであります。

さらに、財政調整基金の問題であります。一億五千万を調整基  
金として積み立てるわけですが、市長が再三人間尊重あるいは市  
民生活優先というようなスローガンを掲げているわけでありま  
すが、基金へ繰り入れるということではこうしたスローガンの内  
容が泣くというものではないかと思ひます。

市民福祉の充実は、その点で私は一般行政質問の中でも移動入  
浴車ということで提案したわけですが、こういう問題についても  
あるいはそれ以外の市民福祉の充実ということで、そういうこと  
から考えるならば、直ちにこの予算について財政調整基金という  
形ではなくて、市民福祉の充実ということで文字どおり人間尊重  
市民生活優先ということから多くの施策がでるはずであります。  
す。

以上のような大きな理由から、二点にわたる理由から、個々  
には積極的な施策も多く含んでおる予算ではありますけれども、交  
際費の問題あるいは財政調整基金への積み立てというような、こ  
うした問題に見られるところの政治姿勢に問題点を感じるわけ  
でありまして、私の反対討論といたします。

○議長（石井 正君） 次、二九番安西益男君。

（二九番議員安西益男君登壇）

○二九番（安西益男君） 総務委員会付託の案件についてはおま  
ね了解し、賛成するわけですが、議案四十五号一般会計補  
正予算案特に総務費において防災対策費の災害復旧資金貸付金四

百万円の削減処置についてであります。

委員会でも当然これは論議されたと思うわけでございますが、  
これは今定例会に四十号議案として上程されました災害住宅復旧  
資金の貸付制度の廃止案でありましたが、この問題は議会で御質  
問申し上げたとおりでございまして、結果的には市長の英断によ  
つて撤回されることと相なつたわけであります。これは当局の  
思いやりの行政の復活、市長の福祉行政復活を意味するものであ  
ると、このように存じ上げるわけでございます。

しかし、災害住宅復旧資金の貸付制度と連動し、表裏一体の関  
係にありますこの予算四百万が、四十号の条例廃止案が成立する  
ものと予測で、計上してありました貸付金が削られたままであ  
り、本来ならば当然条例撤回とともに予算案を修正し、復活し得  
なければならぬ性質のものであります。補正予算全部を組み直  
す作業、また当局の立場もあると考えられますが、近いうち何ら  
かの処置をとることのようでございますが、まことに便宜主義  
的な感じを強くするものであります。条例があるが、裏づけの予  
算処置がないということでは、いつ対象者が出るかもわかりませ  
ん。まことに納得しがたい面もあるわけであります。

しかしながら、担当委員会としましても重視し、市の方針も協  
議されたことでもありますので、今後慎重に対処するよう強く要  
望し、賛成の討論とするものでございます。

以上でございます。

○議長（石井 正君） 以上で、通告者による討論を終ります。  
通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認  
めます。以上で討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。採決は分割して行います。

まず、議案第三十九号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて、議案第三十九号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第四十五号昭和五十四年度館山市一般会計補正予算について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よつて、議案第四十五号昭和五十四年度館山市一般会計補正予算は原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（石井 正君） 日程第二、議案第四十一号、議案第四十二号及び議案第四十六号の各議案を一括して議題といたします。

### 文教民生委員会委員長報告

○議長（石井 正君） ただいま議題となりました各議案は去る九月六日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よつて、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長栗原一雄君御登壇願います。

（文教民生委員会委員長栗原一雄君登壇）

○文教民生委員会委員長（栗原一雄君） 本定例議会において去る六日文教民生委員会に付託されました議案三件について、翌七日委員会を招集し、慎重なる審査を行いました。

その経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず初めに議案の審査結果について申し上げます。議案第四十一号館山市福祉作業所の設置及び管理に関する条例の制定について、全員原案どおり可決すべきものと決定いたしました。議案第四十二号館山市国民健康保険財政調整基金の設置、管理及び処分に関する条例の制定について、及び議案第四十六号昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）についてはそれぞれ賛成多数をもつて原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の過程における主なる事項について申し上げます。議案第四十一号につきましては、福祉作業所は一千四百九十三



万余円で建設され、福祉協議会に委託して運営し、年間の運営管理費は四百五十万円程度を予定している。なお、入所希望者は現在八名で手をつなぐ親の会の全面的な協力のもとに二名の職員で指導にあたるのが質疑を通じて明らかにされましたが、入所希望者の増も考えられるので、運営については社会福祉協議会等十分指導され、新しい福祉施設として所期の目的を達せられるよう要望をいたしました。

次に、議案第四十二号についてでございますが、一般会計から二千万円の繰り入れがなされているが、来年度も繰り入れを行うか、今後基金をどのように運用していくのかについて質疑があり、説明を求めましたところ、

基金の本来の形から言えば、国保会計の剰余金を積み立てるのが本来のあり方であるが、療養の給付を受ける被保険者の高齢化に伴う制度の矛盾や、本市の国保加入世帯の割合が他市より多い実情などいろいろの観点からある程度の繰り入れをした。なお今後については、はつきり結論は出せないが、国保税の上昇率等を考えながら対処したい。また基金の運用については地方財政法の規定に従って剰余金の積み立てをし、健全財政の運営から考えれば一、二カ月の支払い充当分は基金として備蓄していきたいが、あまり高額上昇が推測される場合は、減税に振り向けることもあり得るとの答弁がありました。

その他老人医療費の現況、保険税の上昇状況、診療報酬のチェック機関の充実等について質疑が行われました。

以上、本委員会に付託されました議案三件について文教民生委員会における審査の概要を御報告申し上げます。満場の御賛同

をたまわりますようお願いいたしまして、文教民生委員会の報告を終ります。

○議長（石井 正君） 以上で、委員長の報告を終ります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（石井 正君） これより討論に入ります。

通告がありますので順次発言を許します。

一番神田守隆君。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案四十二号の館山市国民健康保険財政調整基金の設置、管理及び処分に関する条例の制定について反対の討論をいたします。

国保税の上昇は、すでに特別会計だから独立採算を旨とすべしといったところで、もはや負担の限度を越えているというべきであると思います。その原因は国保制度自体に問題があり、その抜本的改正は重要な国政上の課題となつていると考えられます。

ところで、国保会計に財政調整基金を設けるとのことですが、当局は質疑の中ですでに国保税の負担についても限度であり、この条例をその一助としたい旨の説明があつたわけでありますが、その限りでは私としても全く異存のないところであります。むしろ二千万などというのは少な過ぎるというふうに考えるものであります。

しかし、その条例の仔細について検討してみると、重要な問題点を感じるわけがあります。それは次の点であります。

国保税、現状ではすなわち年々大幅な増額をしなければやつていけないという現状からいつて、剰余金が出たらそれは即税の軽減に充てるべきで、積み立てるものではないということであります。地方財政法第七条の規定によつて、剰余金の二分の一を下らない——すなわち二分の一以上を財政調整基金に積み立てなければならぬので、その積み立て額相当以上の金を一般会計から繰り入れしない限り、むしろ国保税は高くなるという問題点をもっているわけですが。国保税の軽減を図るべきものが、むしろ国保税を重くしかねない問題点を含んでいるわけです。国保税の軽減を図るということであるならば、一般会計から国保会計に繰り入れをすれば足りることで、いま申し上げた問題点をもつた基金条例をつくらなくても十分できることであります。

私は、国保税の軽減を図らなければならないことには賛成するものですが、この条例を仔細に見た場合、結局は一般会計からの繰り入れについてはつきりと明記していないわけで、そのことについて、そのことにはつながらず、むしろ逆の結果につながることにともなひかねないわけです。こうしたことから、この条例の制定については反対をいたします。

次に、議案第四十六号昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計の補正予算についてであります。この補正予算については賛成の討論をいたします。

財政調整基金条例は剰余金の二分の一以上を積み立てると規定しているわけですから、一般会計からその積み立て相当額以上の

繰り入れをしなければ、国保税の負担は増大することになるわけです。しかし、今回一般会計からの二千万の繰り入れということでは、それ自体としては国保税の軽減の原資となるものであります。金額はわずか二千万であり、全額税の軽減に還元されたとしても一世帯当たり二千三百円相当であり、きわめて少ないということのが率直な感想であります。一般会計からの繰り入れということはこのこと自体には了解をし、賛成の討論といたします。

以上です。

○議長（石井 正君） 以上で通告者による討論を終ります。通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。採決は分括して行います。

まず、議案第四十一号館山市福祉作業所の設置及び管理に関する条例の制定について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて議案第四十一号館山市福祉作業所の設置及び管理に関する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第四十二号館山市国民健康保険財政調整基金の設置、管理及び処分に関する条例の制定について起立により採決い

たします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

#### (賛成者起立)

○議長(石井 正君) 起立多数であります。よつて議案第四十二号館山市国民健康保険財政調整基金の設置、管理及び処分に関する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第四十六号昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

#### (「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて議案第四十六号昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算は原案どおり可決されました。

### 議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第三、議案第四十三号、議案第四十四号及び議案第四十七号、議案第四十八号の各議案を一括して議題といたします。

#### 建設経済委員会委員長報告

○議長(石井 正君) ただいま議題となりました各議案は、去る九月六日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであ

ります。

よつて、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長流山源次郎君御登壇願います。

#### (建設経済委員会委員長流山源次郎君登壇)

○建設経済委員会委員長(流山源次郎君) 九月六日の本会議において建設経済委員会に付託されました議案第四十三号乃至議案第四十四号及び議案第四十七号並びに議案第四十八号につきまして九月八日午前十時委員会を招集し、各案件について慎重審議の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

以下、審査の結果並びに主なる経過について御報告申し上げます。

まず、議案第四十四号館山市中里地区土地改良事業分担金徴収条例の制定についての審議経過については、事業内容についての質問から始まりました。

新規事業で、昭和五十四年、五十五年度の継続事業であり、その事業内容は、ほ場整備を中心として、その工事は五十四年度中に実施できる計画である、換地事務が五十五年度になるとの回答あり、事業総額、対象人員及び土地改良法第三条による同意の件をただしたところ、総額一千百万円以内、対象人員は十四名であり、参加者の同意一〇〇%である旨の答弁を得、延滞金の円未満等の取り扱い等に対する質疑に対し、確定した額に百円未満の端数が出たとき、または全額で五百円未満の場合切り捨てる旨の説明がなされました。工事施行内容をただしたところ、区画整理が一・一五ヘクタール、それと道路、水路であり、水路は巴川に流

れるようになり、施行後は全部畑作である旨の説明と、分担金の賦課基準は国が五〇％、県が二五％、市一〇％の補助であり、最高事業費一千百万円とした場合百六十五万円、これを十四軒で負担すると単純平均十一万七千円になる旨の答弁を得て、全員一致原案可決いたしました。

議案第四十七号昭和五十四年度館山市国民宿舍特別会計補正予算（第一号）についてを議題として、まずし尿処理の構造についての考え方を問いました。し尿処理の構造については規定によって〇・〇一PPM以下の構造を考えており、海岸に流す考えであり、地元漁協の同意を得ている旨の答えあり、地方債補正について利率が七％から八％に変更になった理由をただしたところ、公定歩合の引き上げによるものとの答弁を得て、参考意見として市の予算案全般との関連につき意見を求め、全員一致可決いたしました。

議案第四十八号昭和五十四年度館山市水道事業特別会計補正予算（第一号）につきまして、今回の配水管工事による給水戸数の増があるか、更には道路条件による加入者負担の不公平に関する質問に対し次の答弁がありました。

加入者分担金を七百二十万円追加補正しており、当初予算に比較して年度末までに百六十戸ふえる見込み、業務予定量として給水戸数一万二千六百戸となっているが、五十三年度決算時点で九千八百二戸の加入あり、今年度末までに予定量にある程度達する見込みである。

簡易水道当時メーターまでプール計算をしたこともあるが、今後負担の関係で検討しなければならぬと思う。道路の復旧等につ

いては本管と一緒にやるように現在もやっている。

国、県道の場合、取り出しは一軒一つでは許可にならない。二、三軒で一本取り出すということとでそのほうが経費も安い。今後の問題としてある程度の戸数がまとまるものについてはプールの計算することはできると思うので検討していきたいとの回答を得て、最近いい機械もできているようだし、経費のかからないような方法も検討してもらいたいとの要望を出して全員一致原案可決に賛成いたしました。

以上、審査の概要を御報告申し上げましたが、いずれも原案どおり可決すべきものとの結論に達しましたので、ここに建設経済委員会委員長報告といたしました。何とぞ満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（石井 正君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

よつて質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論はございませんか。——討論なしと認めます。

よつて討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） 採決いたします。採決は一括して行います。

議案第四十三号、議案第四十四号及び議案第四十七号、議案第四十八号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて議案第四十三号、議案第四十四号及び議案第四十七号、議案第四十八号の各議案はいずれも原案のとおり可決されました。

### 請願書の上程

○議長(石井 正君) 日程第四、請願第三号請願書を議題といたします。

### 文教民生委員会委員長報告

○議長(石井 正君) ただいま議題となりました請願書は、去る九月六日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よつて、これより本請願書に対する文教民生委員会における審査の経過につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長栗原一雄君御登壇願います。

(文教民生委員会委員長栗原一雄君登壇)

○文教民生委員会委員長(栗原一雄君) 本定例議会において文教民生委員会に付託されました請願第三号請願書について、七日委員会を招集し、審査を行いました。以下、審査の経過について御報告申し上げます。

本請願書につきましては、なお慎重に審査を要するとの観点から閉会中の継続審査とすることに決定いたしましたので、御了承

賜りますようお願い申し上げます。

### 継続審査について

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

ただいまの委員長報告のとおり、本請願書につきましては慎重審査の必要上、閉会中の継続審査といたしますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

### 議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第五、発議案第二号明正選挙推進に関する決議についてを議題といたします。

決議案の朗読を願います。

(書記朗読)

### 議案の内容説明

○議長(石井 正君) 朗読は終わりました。

次に、決議案について提案理由の説明を求めます。

(二四番議員和田一郎君登壇)

○二四番(和田一郎君) 発議案第二号明正選挙推進に関する決議について提案理由を御説明申し上げます。

本市におきましては、従前から民主政治の根幹とも言うべき明るく正しい選挙の実現に努力を続けておりまして、ことに昭和三

十八年には公明選挙都市宣言を行い、今日に至つております。

今回、総選挙が行われるに際しまして、改めて本市議會の意思を明らかにするとともに、市当局、市民に対しまして明正選挙の推進を要望してまいりたいと考えまして、お手元に配付のとおり七名の賛成者を得て本案を提出した次第でございます。

何とぞ満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明いたします。

○議長(石井 正君) 以上で説明は終わりました。

御発言願います。御発言はございませんか。——御発言なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

本案を委員会付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

#### 採 決

○議長(石井 正君) これより採決いたします。

本案を原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案のとおり可決されました。

ただいま議決されました決議につきましては、市長及び選挙管理委員会に送付いたしたいと思います。御了承願います。

#### 議 案 の 上 程

○議長(石井 正君) 日程第六、議案第四十九号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。  
議案の朗読を願います。

(書記朗読)

#### 議 案 の 内 容 説 明

○議長(石井 正君) 議案の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 議案第四十九号館山市教育委員会委員の任命について提案理由の説明をいたします。

教育委員会委員中一名の者がこの九月三十日付をもつて任期が満了となりますので、これが任命方について市議會の同意を得ようとするものでありますが、前委員であつた関 和雄氏を再任いたしたくお願い申し上げようとするものでございます。

よろしく御了承いただきたいと思います。

○議長(石井 正君) 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よつて質疑を終結いたします。

#### 委員会付託の省略

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

本案については委員会付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

## 討 論

○議長(石井 正君) これより討論を行います。

(一番議員神田守隆君登壇)

○一番(神田守隆君) 現在提案のありました教育委員の選任の件で反対の討論をいたしたいと思ひます。

教育委員の選任は公選制による、これは教育委員会を通じて教育意思決定の主体である市民みずからの手によつて教育を管理運営するといふ考え方を制度化したものであつたわけでありますが、この制度は今日廃止されているわけでありすけれども、中学校の統合問題をめぐる一連の過程を見るとき、市民自身が教育の意思決定の担い手として参加してくるこの重要性を感じないわけにはまいりません。

私は、現在の教育委員の選任方法そのものに反対するものですが、同時に現行制度のもとにあつても、中学統合にあたつての当局の態度や姿勢に釈然としなないものを感じてきたわけでありす。こうしたことを感じてきたのは私一人ではないといふふうに信ずるものですが、この点で、教育委員会は十分に市民の納得の得られるようこの問題に対処してきたとは思ひ難いと思ふものであります。

したがつて、この再任についての提案がありますが、反対いたします。

○議長(石井 正君) 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。よつて討論を終結いたします。

## 採 決

○議長(石井 正君) これより採決いたします。採決は起立により行ひます。

教育委員会の委員について同意を求める件は、これに同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(石井 正君) 起立多数であります。よつて本件はこれに同意することに決しました。

## 議 案 の 上 程

○議長(石井 正君) 日程第七、議案第五十号館山市名誉市民の称号を贈ることについてを議題といたします。

議案の朗読を願ひます。

(書記朗読)

## 議 案 の 内 容 説 明

○議長(石井 正君) 議案の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 議案第五十号館山市名誉市民の称号を贈ることについて提案理由の御説明をいたします。

本年は市制施行四十周年を迎えるわけでありますが、これを機にこれまで市政の発展に大きく貢献し、また広く社会の発展と文化の向上に寄与され、市民から等しく尊敬と信頼をもつて迎えられるにふさわしい六名の方々を、去る八月二十二日の館山市名誉市民選挙委員会からの答申に基づき、郷土の誇りとして名誉市民に推挙申し上げたく、市議会の同意を求めようとするものでございます。

満場の御賛成をお願いいたします。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

### 質 疑 応 答

○議長（石井 正君） 御質疑を願います。

○一番（林 豊君） 名誉市民の称号を贈る第五十号議案でございますが、名誉市民の選考について非常に立派な選考が行われたことをまず市民といたしまして感謝申し上げます。次第でございますけれども、この内容については、館山市民の中で近い過去におきまして、あるいは現在、偉大なる功績を残された名誉ある方たちを選ばれたわけでございます。これらの方々はそれぞれ名誉ある叙勲を受けられて立派な人たちであるというふうに考えております。

この人選については一点の疑念もはらむところではございませんけれども、この議案は長く館山市に残るものであります。この議案の内容について「記」以下の人名の配列についていささか疑義がございますので御質問を申し上げます。

この配列については、何か特別な準拠があつて配列をなされた

か、この一点について御質問申し上げます。

○市長公室長（汐崎政光君） お答え申し上げます。

まず、最初に掲げました三名の方々については五十音順でとらえてございます。それからあとの三名——生存の方々とございしますが、これらの方々につきましても五十音順で挙げさせていただきました。

○一番（林 豊君） この配列について五十音順であるというふうに答えていただきましたので、それならば私は了承をいたします。あるいは官位等級、あるいは死亡年月日、あるいは五十音、というふうなことを準拠としてやられたならば、この下に、私は五十音順というふうなものを明記されることのほうが親切であつたらうと思いますが、いかがでしょうか。

○市長公室長（汐崎政光君） 御意見ごもつともと思います。

○一番（林 豊君） 了承いたします。

○議長（石井 正君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。質疑を終わります。

### 委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。



○議長（石井 正君） これより討論を行います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 館山市名誉市民の称号を贈るこの議案について反対の討論をいたします。

条例では、「広く社会の発展、文化の興隆又は公共の福祉の増進に多大の貢献」ということをうたっているわけですが、この人選を見るとき、きわめて政治的な傾向が強いということを感じます。ことに、政治家の政治家としての貢献、評価ということは特定の政治的利害に結びついて評価されます。そして、その評価自身が政治問題そのものであるというふうに考えます。「おごる平家は久しからず」との言葉がありますが、政治家の評価は時代が変われば評価もまた変わるものです。

私は、特定の個人についてどうこうと言うものではございませんが、この人選がきわめて政治的なものであるということから、こうした人選については反対いたします。

○議長（石井 正君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。討論を終ります。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よつて本案は原案のとおり可決されました。

閉

会 午後二時二十三分開会

○議長（石井 正君） 以上で本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よつてこれにて第三回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第三十九号、議案第四十一号乃至議案第五十号

一、請願第三号

一、発議案第二号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 石 井 正

館山市議會議員 横 溝 功

館山市議會議員 五十 嵐 昇

